

昇進和解の力を組織拡大へ



=国労で試験に合格しよう=



組合員の購読料は
組合費に含まれます

荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 阿部 力
編集責任者 宮崎浩則

No. 1670 定価
15円

2006年

1月5日

国労東京地本二〇〇六年旗開き
一月六日(金)
一一時〜 芝弥生会館
第二七回新春団結マラソン大会
一月四日(土)
一〇時〜受付 桜田門(一周・二周)

第一〇回囲碁・将棋大会
一月二日(土)
一〇時〜受付 王子「北とびあ」
第二六回スキー大会
二月三日(水)・三日(木)
一一時〜受付 湯沢パークスキー場

新年明けましておめでとうございます。地方本部執行委員会を代表し、年頭の挨拶を申し上げます。

昨年は、鉄道輸送に携わる私たちにとって辛く厳しい一年でした。四月二十五日の福知山線脱線転覆事故では、一〇七名の尊い生命が奪われ、五五五名の乗客が負傷する大惨事となりました。さまざまな背後要因が指摘されていますが、絶対の安全確保に向け、労働組合としてのチェック機能を強化し、仕事総点検・安全総点検運動をしっかりと取り組み、未然に事故の芽を摘み取り、二度と再びあのような悲惨な事故を起こさないことを年頭に当たり改めて誓い合いたいと思います。

さて、JR不採用事件についてであります。闘争団の現状は、三五名の仲間が闘い半ばで亡くなり、平均年齢も五二歳を迎える状況の下、厳しいアルバイトや精神的ストレスによる傷病者も生まれており、解決は緊急を要しています。



執行委員長 阿部 力

〇六年新春の挨拶

私たちは、昨年の第七三回定期全国大会で全組合員・全闘争団員が大同団結して、JR不採用事件の政治解決に全力をあげるため四項目の補強方針を含め満場一致確認し、闘争団・家族上京行動や省庁・国会議員要請行動、さらには、JR組合員との交流などの取り組みを強化しています。

また、九月一五日、一部闘争団が鉄道建設公団を相手に提訴していた、訴訟に対する判決が下されました。判決は、清算事業団からの解雇には合理的な理由があり有効とする不当な判決でしたが、一方で採用候補者名簿に記載しなかったのは、不法行為と評価するものが相当であり、慰謝料として一人当たり五〇〇万円を支払え、また、時効消滅の起算点は

平成一五年一月二二日、であるとするとものでした。私たちは、今年一年が極めて重要との認識の下、組織の統一と団結を一層強化し奮闘する決意です。

組合員・ご家族の皆様のご理解と生活援助金カンパをはじめ、アルバイト物販や連帯する会への加入など、引き続きご協力を訴えるものです。

もう一つの闘いの柱を、JR会社の労務政策転換と組織強化・拡大と位置づけ取り組み、昨年は、昇進差別事件の和解を成立させることができました。昇進差別事件は究極の差別事件、国労つぶしとしてかけられた最も厳しく組織の命運を決する闘いだっただけに筆舌に尽くせないものがあります。

今回の合格率は、一昨年を大幅に上回りましたが決して満足できるものではありません。私たちは、「国労で合格しよう」を合言葉に、受験者数においても合格者数においても昨年を大幅に上回る結果を勝ち取りたいと考えています。

また、昇進和解を「正常な労使関係の確立」「不公平感のない明るい職場作り」に向けた第一歩と位置づけ、国労運動に展望を切り開き、組織強化拡大に邁進する決意です。多数派組合を自任するJR東労組は、労働運動の次元を外れた強要事件や役員専従解除など内部抗争を激化させています。また、昨年一二月には、警視庁公安二課から元会長宅等が家宅捜索を受けるなど、依然として組合員不在の組織運営に終始しています。また、

JR連合も組合員の期待に応えうる状況にありません。国労に対するJR職場の期待の声を訴えるとともに、その先頭に地方本部が立つことを明らかにしておきたいと思えます。

二〇〇六春闘を取り巻く経済情勢は、上場企業各社が過去最高の増収増益に示されるかつてない環境下にあります。JR各社も中間決算を発表していますが、増収増益となつて

います。一方、私たちの生活は定率減税の全廃や医療保険制度の改悪、介護保険料の引き上げ、年金制度改悪など可処分所得は大幅な減収となつています。国民春闘の再生を図るとともにベアゼロを跳ね返し、賃金引上げや職場環境改善などを勝ち取る闘いを強化したいと考えています。

小泉第三次改造内閣は、「構造改革」を掲げ、年金・医療・税制などを改悪し、国民に犠牲を強いる一方、自衛隊のイラク派兵をさらに一年延長しました。

また、自民憲法改正草案は、自衛隊を自衛軍に改変し、集団的自衛権を行使できると規定するなど平和憲法を守る闘いが極めて重要になっています。

また、郵政改革に続く攻撃目標を公務員に向け、国民の目を反公務員へと誘導しようとしています。その手法は不況でも身分の安定している公務員などと大衆の攻撃性、憎悪を扇動する稚拙な手法ですが、国鉄分割・民営化を前にしたあの攻撃を想起させるものです。私たちは、関係する組合や団体と連携し、働く者の生活と権利を守る闘いを強化したいと考えています。

執行委員長	阿部 力
執行副委員長	濱中 保彦
書記	菅原 助雄
執行委員	石上 浩一
執行委員	山本 久
執行委員	斉藤 由
執行委員	宮崎 浩則
執行委員	江田 雄次
執行委員	海老原 悟
執行委員	鎌田 博一
執行委員	石井 富男
執行委員	中里 豊樹
執行委員	坂本 和彦
青年部長	柴田 互
青年副部長	阿部美津子
婦人部長	中野日出實
会計監査員	佐藤 正一
会計監査員	千代村直孝
会計監査員	福原三三子
書記	新井 清一
書記	小俣 勝美
書記	佐藤 誠
書記	福地 一郎
書記	寺崎 幸子
書記局(中央共闘)	佐伯 肇
書記局(中央共闘)	井口 栄子
書記局(全労協)	小川美智子
【国労会館東京地方部】	
職員	市村 和子
【国労議員団】	
会 長	小林 正
【国労家族会東京地連】	
会 長	青柳 清美
【鉄道退職者会東京地連】	
会 長	羽切 信夫

春風献上

国鉄労働組合東京地方本部

合格者(昇進・シニア再雇用)の声

昇進差別事件の和解協議が開始された一昨年末以降、初めて実施された昇進試験で、国労東京地本内四支社の受験者は前回比五倍強が合格。中でも主任職では六倍近く合格している。

また、昨年一〇月に発表された再雇用機会提供制度(シニア再雇用)についても、国労東京地本内四支社の国労組合員希望者の

内、八〇%以上が合格した。前回の五〇%程度との対比では、驚異的な数字と言える。

二〇〇六年の新春にあたり、昨年の昇進試験合格者と再雇用機会提供制度合格者の生の声を掲載し、合格に向けた益々の取り組みを呼びかける。

戸野塚昭雄さん

(東京通信技術センター・四五歳)
主任試験に合格!



一〇年ほど前に指導職試験には合格した。主任職試験には受験資格が付いてから七年間受験し続けた。一次試験には今まで三回合格していたが二次試験で落ちていた。四回目で初めて二

佐藤正義さん

(飯田橋駅・五九歳)
シニア再雇用試験で
ジェイアール東京企画開発に合格!

一月一〇日以降二月中までに就労条件や就業場所などが決まる。業務は、改札・遺失扱い・駐車場・ホームライナーテレフォンセンター・パーカー・うどん・そば等あり、引き続きの業務を希望した。昨年までは国労が採用されていない事は知っていたが、管理者や仲間にも相談して受験した。

自分は国鉄時代、隅田川の貨物扱いで約二〇年仕事をしていたが、JR発足後に上野要員センターを経て数箇所のペンディングを経験、五年程前に飯田橋駅に赴任した。駅の勤務は長く当初はきつかったが、泊り勤務だと

酒が抜けるので丁度いい。でも明けの日はやっぱり眠い。六三歳まで一年更新で勤務することになる。

後輩の皆さんへ「管理者に相談したら、シニア再雇用の職場はJR東日本と一体だから、ニューフロンティア二〇〇八を読んどくように言われた。皆さんも、管理者や仲間と相談して頑張ってください!」



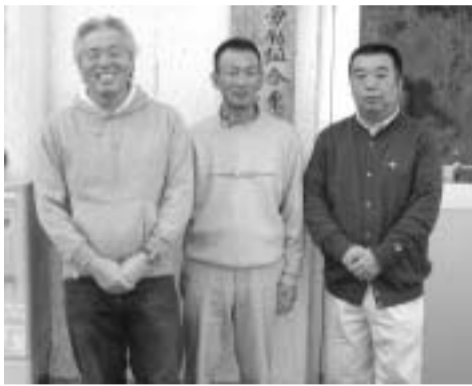
次試験を突破した。今回の合格は、うれしいけど複雑だ。合格した人は他労組からも国労の人からも仕事について厳しい見方をされる。

管理者も国労の仲間も喜んでくれた。分会の中には、受験に消極的な人もいる。主任になると責任が重くなる。しかし一方で、職場の業務の中心になることを意味する。それは意見を反映することのできる立場になることでもある。

仕事で職場の中心に座り国労組合員が優位に立とう。昇進差別解消は当然だが、教育問題にも取り組んでほしい。

今は四等級なので二月に五等級になり、再来年二月に主任・六等級になる。

並木賢一さん(大宮車掌区・五一歳)
大橋崇彦さん(大宮車掌区・四三歳)
片嶋英男さん(大宮車掌区・四七歳)
指導職試験に合格!



分会で合格に向けた議論を深め、他労組と同じ事をしつつ違いを鮮明化しようとして、若い組合員の発案から小集団活

動に取り組んできた。これは不合格の場合の差別の証明、合格するためのものとなった。指導職四名、等級試験一名の合格が出て、「役員ばかりが合格している」「なぜ大宮車掌区は多く合格したんだ」の声もあった。しかし国労は全体として真面目に業務に取り組んでいたし、勉強や面接の練習も平均三回程行う等努力してきた。その結果が出たという意味で合格して本当に良かった。

大橋さんは、「一次には二回合格。何やつてもダメだではなく、やるだけやってみよう」と取り組んできた。片嶋さんは「合格は個人的にはうれしい。ただ、研修の中で個人の責任に転嫁することや、実際に即さない講習は改めてほしい」、並木さんは「小集団の取り組みなど話ができつつあり、やっとここまで来たと思う」と話した。

大泉浩さん

(中原電車区・五八歳)
シニア再雇用試験で鉄道整備に合格!



昇進試験は毎年受験し主任試験にチャレンジするも、一次すら合格することはできなかった。今回は書類を区長に提出した際、「在勤地の希望は?」と聞かれた。

試験は小論文と面接。不安な中会場に、大

井工場の仲間と同期の管理者が二名いたことで気分的に楽になった。面接で「今までの仕事は車両の整備だが、うちでは清掃ですよ」と言われ、「苦にはならない」と答えつつ、自分の経験から「入換え等で電車を動かすが、電車の陰から人が出てくると乗務員としては不安」等を伝えると、この「安全面」について重点的に聞かれた。

再就職で一〇万円以上の減額になる点、職場の活性化、新系列車両の教育は若い人が中心でやる気が失せてしまふ点、各種会議等すべて東労組が出席の点、これらを国労として改善して欲しい。

今後チャレンジする人は、一人ではない、仲間を大切にすることを心がけて欲しい。

奥平千治さん

(相原駅・四六歳)
指導職試験に合格!

九回目で指導職に合格した。回を重ねる傾向が分かるにつれ、制度・会社概要・時刻表の内容等、個人的に勉強もしてきた。受験するからには合格を目指す、何度も不合格にされ「国労では合格しないのかな」と考えることもあった。

職場の先輩から「闘いだから」と受験を奨められ、チャレンジを続けてきた。申し訳ないことにその先輩は二次で不合格に。二次に向け駅長が、「面接の練習をしよう」と協力してくれた。

職場の仲間はみんな「おめでとう」と言ってくれる。職場では何かあればみんなで相談

する、助勤者も「ここは来やすい」と言ってくれる。仲間と努力しあつてそうした職場を作ってきた。

合格してうれしいが、指導職の責任を考えるとこのほうが大きい。また、間違つた形で競争が作られることが心配。仕事は機械の操作を含め、みんながきちんとしている。合格しない方がおかしいと思う。

舟山博さん

(新宿駅・四八歳)
指導職試験に合格!



JR発足後、東京・品川・新宿と転勤。東京駅の時は毎年受験していた。品川駅に行つてから、どうせ国労だから合格しないだろうと思いついて受検しなかった。

た。御茶ノ水駅で退職した町田さんから「一緒に試験を受けて合格しよう」と誘われ再び受験を始めた。町田さんは結局合格できずに退職。自分が合格できたのは、受験を誘ってくれた町田さんのおかげ。

新宿駅では指導職に二人受験して九人が合格した。一次試験は新宿駅に来て初めて合格。今回はテキストをもらい勉強もしたし、二次に向け管理者が二回の面接練習をしてくれた。

合格して率直に良かった。仲間は「おめでとう」と言ってくれる。一方、自分が指導職に対し持っていた意識が、今後自分に向けられるのかなと思う。いろいろな意見があるが、雑音を気にせず、私が誘われて受検し合格したように、受験して欲しい。

